

# 令和4年度 第4回学校運営協議会 及び 第2回コンプライアンス委員会 報告

1 日 時 令和5年2月22日(水) 10:00~12:00

2 会 場 本校校長室

## 3 参加者

### (1) 学校運営協議会委員

常葉大学教育学部 初等教育課程 講師

協同組合 静岡流通センター 専務理事

弁護士法人 ましろ総合法律事務所 代表弁護士

麻機学区自治会連合会 防災委員長

静岡市障害者協会 静岡市障害者相談支援推進センター 事務局長

本校PTA会長

### (2) 本校職員

校長、副校長、教頭、事務長、部主事(小・中・高)、教務主任

## 4 会議次第

(1) 開会

(2) 校内参観

(3) 協議

(4) 第2回コンプライアンス委員会

(5) 連絡

(6) 閉会

## 5 会議内容

### (1) 開会

#### ア 校長挨拶

- ・コロナ禍も3年目となり、5月8日からコロナが5類となる。卒業式のマスクをどうするかなど、新しい対応を考えなければならない。本校は、障害がある子の学校であることに加え、体育館の広さも考慮し、年度内と入学式まではこれまでどおりの対応を考えている。
- ・年度当初は児童生徒数400人。大規模狭隘化問題があり、狭さによるトラブルも起きているが、その都度対応している。その中でも教育目標『『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひと』のとおり、子供たちは頑張っている。行事についても、今年度は形を変えながら実施した。
- ・令和5年度は、開校50年目を迎える。本校では令和6年度に式典やイベントを実施する。令和5年度に準備委員会を立ち上げ、準備を始める。
- ・今年度は、プレハブ校舎が完成したが、狭隘化は続いている。令和8年度には静岡視覚特別支援学校の敷地に新校が設置され、高等部生徒の半分位がそちらに通う予定。また、2月4日に先行報道があったように、2月の県議会で本校校舎の建替えについての議案が提出されている。いろいろなことが同時進行になるが、PTAの皆様とも共有しながら進めていきたい。特別支援学校の知名度が上がり、追い風が吹いているようにも感じられる。それは皆さんの力添えがあるから。学校運営協議会の存在に力をいただいている。

## イ 日程説明【副校長】

- ・今日の会の目的は3つ。今年度の学校経営について評価をいただくこと、次年度の学校経営計画について御意見をいただくこと、コンプライアンスへの取組について御助言をいただくこと。

## (2)校内参観

## (3)協議

### ア 令和4年度の学校経営について

#### (ア)学校経営評価についての説明【副校長】

- ・今年度の学校経営の評価について、3つの柱「専門性」「安全・安心」「連携」に分けて説明する。
- ・自己評価については、児童生徒、保護者、職員を対象にしたアンケートの結果と、担当部署内で検討した評価を総合し、A、B、C、Dの4段階で評価した。

#### (イ)1つ目の柱「専門性」の評価【副校長】

- ・「学校体制でのカリキュラム・マネジメントの推進」について、自己評価はA。成果と課題として、学習指導要領の活用意識が高まったこと、年間学習指導計画の作成や活用について、今年度の取組をベースに継続、発展させていけると良いことが挙げられた。
- ・「児童生徒理解に基づく『夢中』と『笑顔』の授業づくり」について、自己評価はB。「授業が楽しい」と答えた児童生徒について、前年度に比べ10%以上増えているが、目標には達していないので継続していきたい。タブレット利用の自由度は増しているが、活用の幅が限られているのが課題。OJT研修は、学部会内に時間を設定したことが有効だった。
- ・「月45時間以内を目指した時間外勤務の削減」について、自己評価はA。個人としても計画的に業務を進める意識が高まった。提案内容の精選、早めの提案、検討事項の明確化等の工夫や意識の向上で、予定時間内で終われる会議が増えた。事務室からの情報提供にとどまらず、要望に応じた提供を考えたい。

#### (ウ)1つ目の柱「専門性」の評価についての質問・意見(・)とそれに対する回答(→)(⇒)

- ・カリキュラム・マネジメントについて。授業の根拠について説明を受けたと答えた保護者が90.7%という結果は良い結果だと思う。学部ごとの差はあるか。  
→小学部95.9%、中学部97.5%、高等部84%。  
⇒質問したのは、高等部の状況がどうか知りたかったから。高等部の保護者の障害理解について気になっている。(特に途中から特別支援学校に通っている生徒。)しかし、高等部も高い評価で良かった。つながりにくいところを丁寧にやっているということだと思う。
- ・タブレットの使用について。「タブレットを使用した授業1回」という目標はどういうことか。  
→「各教師が1回使用」という目標。小学部では、国語や算数の授業での活用が多い。総合合わせや計算のドリルなどを行っている。中学部でも、国語や数学の授業で活用することが多い。他に、体育で体操やダンスの見本を見たり、生徒の姿を撮影して後から生徒が自分で確認したりしている。高等部では、1人1台のiPadはないが、Chromebookを使っている。調べ学習で活用したり、作業学習での自己確認の手段として使ったりしている。また、卒業生を送る会の司会の原稿をiPadの画面に出し、指でスライドしながら見て進行している場面もあった。  
⇒質問したのは、1回は少ないのではないかと思ったから。たくさん活用されていることが分かった。

- ・自己評価A、B、C、Dの基準は何か。
- アンケートのパーセンテージだけでなく、分掌課での話合いの結果を含めて出している。評価の曖昧さも感じているので、今日見ていただいて御意見をいただければと思う。
- ・「児童生徒理解に基づく『夢中』と『笑顔』の授業づくり」の自己評価Bについて。保護者の評価が目標の8割を超えていれば、Aで良いのではないか。
- 分掌評価プラス「授業が楽しい」と答えた児童生徒が72.5%だったことからBとした。

(エ) 2つ目の柱「安全・安心」の評価【副校長】

- ・「自他を尊重しあう環境の維持向上」について、自己評価はB。挨拶と感謝の言葉について、保護者からはできていないという指摘もあるため、取組を継続する。児童生徒の人間関係や困っていることについては、早期対応できるよう、連絡体制を整え、意識的に行動していきたい。
- ・「未然防止への行動力と有事への対応力の向上」について、自己評価はA。ヒヤリハットや防災の情報が共有できるよう、朝の打合せやPC掲示板で発信できた。実際の児童生徒・教職員の動きを想定した防災訓練を継続実施できた。毎月安全点検を実施し、安全な学習環境の整備に努めた。各学部各分掌課と連携し、正確な事務処理が行えた。

(オ) 2つ目の柱「安心・安全」の評価についての質問・意見（・）とそれに対する回答（→）  
（⇒）

- ・学校だけでなく、それぞれの暮らしている地域ではどうか。地域防災訓練への参加の促しをしていただけると良い。
- 地域防災訓練については、事前に啓発をしたり、事後に参加の報告をしてもらったりしている。コロナで参加率が落ちている現状がある。
- ⇒障害のある人が地域に住んでいることを周囲が知っていることが大事。自分でSOSを出せない人もいるので。

(カ) 3つ目の柱「連携」の評価【副校長】

- ・「豊かな地域資源への深い理解と、それを活かした実践、発信」について、自己評価はA。学部内での麻活は充実していた。麻活について学校日より、リーフレット、ホームページ等で情報発信し、取組状況を伝えることができた。校内で、他学部の麻活理解に向けた研修が足りなかったことが課題。
- ・「1年後、3年後、卒業後の夢を描き、関係機関と連携して実現する」について、自己評価はB。日頃から教員が取組に対する進捗状況を確認・報告したり、支援方法を提案したりして、両者の取組への意識を高めていく必要があった。

(キ) 3つ目の柱「連携」の評価についての質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・1年後、3年後に向けての具体的な取組を了解した保護者が93.2%は高い数値だが、残る数%はどういう状況か。家庭の支援ニーズにも関わってくることで、困難ケースもある。いろいろな状況の家庭があるので、100%でなかったから駄目というわけではないのでは。評価の基準を検討いただければと思う。
- ・保護者の中には、回答がないケースもあるのでは。そういう保護者に対し、学校がどうしているか知りたい。
- 未回答の数は、全校で31人。回答率92.2%。小学部では未回答10人。回答率92.4%。中学部では未回答2人。回答率97.5%。高等部では未回答19人。回答率89.8%だった。
- ・高等部は卒業、将来に向けて保護者が考えてあげなければいけないのに、19人も未回答。その状況は？学校はどう把握しているか。
- 高等部は人数が増える。本校の小学部、中学部から入学する児童生徒と、高等部から本校に入学する生徒がいる。保護者は、子供の理解や受入れ、学校と一緒にやっというと思うことなどにおいて、心のレディネスの違いがある。高等部からの保護者の中にも

熱心な人はいるが、3年間でやっと積み上げていく方もいる。そのあたりが反映されているのではと思う。とは言っても、他の高校と比べると回答率は高い。

- PTAでの様子について。小学部、中学部では、将来のことや就職のことをずっと言われ続けている。高等部から入った保護者は分からない方、覚悟が定まっていない方もいる。そういう方に働き掛けをしなければと思う。
- 高等部での様子について。進路は学校が決めてくれるものだと思っている保護者が多い。学年が上がるにつれて、保護者が頑張らなきゃという意識が高まる。未回答19人の中には、学校に来ていない生徒も含まれる。
  - ・成果目標の設定に100%が多いが、果たして正しいのか。学校だからか。実社会では、100%は難しいのが実際の話。100%を達成できないからと言ってB評価は違うのでは。1年後、3年後に向けての具体的な取組について、「示すことができた教員100%」は良いと思うが、「了解した保護者100%」はどうか。酷ではないか。了解とはどういうことか。「言っているということを知った」と「その内容を理解した」とは違う。目標について考えていただいた方が良いのでは。
- 学校と社会の乖離について、学校はストイックになりがち。社会では項目が詳細になるのでは。項目を細かく絞る。しかしそれを学校評価にすると、仕事が増えてしまう。「100%を目指したいけれど…」という部分については、質をどうするかだと思う。達成したかしないかは追いすぎず、確認の形として、次年度どうしていくかを考えていけば良い。

## イ 令和5年度の学校経営計画について

### (ア) 次年度の経営構想・計画案【校長】

- ・教育目標『『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひと』について。この教育目標3年目。3年を1つの節目として進める。目標を継続し、経営計画については大きく変えるのではなく、ブラッシュアップというイメージで、皆で作成した。
- ・目標具現化の柱について。アの(イ)「開校50年目を迎えた本校の校風と組織力を強みに、特別支援学校で働くことの『魅力』を語り共有できる環境づくりと『効率よくかつ迅速な』業務遂行に努める。」を変更した。50年目ということを経営計画に盛り込んだ。本校の良いところについて、研究熱心であること、人数が多いことによるパワー、組織力などが挙げられたので、本校の強みとして盛り込んだ。また、「特別支援学校で働いていい」というアピールをしていきたいこともあり、「特別支援学校で働くことの『魅力』を語り共有できる」を入れた。
- ・次年度の取組について、取組目標の7本は変えていない。達成方法18本のうち、12本は継続、6本はブラッシュアップ、バージョンアップした。成果目標については、数値にこだわるだけでなく、中身が大事だと考えた。例えば、自分が決めた時間に帰ったかではなく、そのためのタイムマネジメントができることが大事だと考えた。学習中のけがゼロについても、それを目指して取り組むことが大事だと考えた。1年後、3年後、卒業後の夢の実現に向けた具体的な取組については、「保護者が了解したか」ではなく、「目標を共有して取り組めたか」に変更した。先程、100%が妥当かについて、御意見をいただいたので、これで良いのか考えたい。

### (イ) 質問・意見(・)とそれに対する回答(→)

- ・「授業の根拠について説明を受けたと答える保護者80%」としているのであれば、「1年後、3年後、卒業後の夢の実現に向けて目標を共有して取り組むことができた保護者100%」も80%で良いのでは。
- ・学部ごとに数値を変えてはどうか。学部ごとの傾向があると思うので。
- ・退勤時間、会議時間について。4年度は「時間を守れたか」、5年度は「タイムマネジメ

ントができたか、会運営に参加、協力ができたか」。5年度は目標がぼやけている印象だが、引き続き時間を意識していくのか。

→勤務時間管理は継続して行う。時間を守れたかということよりも、それに向けての取組を目標とした。会議については、人数が多いこともあり、一方通行で聞いているだけというものもある。聞くだけの会議を減らして、意見を交換するような会議を増やしたいと考えている。

→退勤や会議について、設定している時間が妥当なのかの確認ができると良い。

- ・1年後、3年後、卒業後の夢づくりについて。卒業後すぐの夢実現だけでなく、卒業後に就労移行支援事業所を使う、卒業してから5年後に就職するなど、いろいろな形がある。そういったことも含めて保護者に指導や情報提供をいただけると良い。

#### (4) コンプラアンス委員会

##### ア 不祥事根絶への取組報告【副校長】

###### (ア) 継続的取組

- ・「学校教育目標と合言葉による職員一丸となる雰囲気づくり(毎週1回以上)」について。職員一丸となる取組はできたが、「合言葉による」と「週1回」ができなかった。

###### (イ) 月別取組

- ・ほぼ、計画に従って取組を実施できた。
- ・交通安全の研修でグループワークが行えなかったこと、「ハラスメント防止チェック表」や「明るい職場チェック表」の実施・活用ができなかったことが反省点である。

###### (ウ) 不祥事件数の報告

- ・セクハラ1件。状況と対応について説明。
- ・交通事故5件。昨年度は17件だったので、12件の減少。

##### イ 質問・意見(・)とそれに対する回答(→)

- ・セクハラについて。スムーズに進みにくい案件もあるだろう。学校だけで対応するのは難しい。第三者をどう入れていくか。聞き取りをする際はどのような聴取が良いか。ニュートラルに、誘導にならないようにする必要がある。家庭や特性をふまえることも必要。体制づくりを検討していただければと思う。それが先生方の教育活動を守ることにもつながる。
- ・虐待の疑われる障害者に質問するとき、○か×かで答えられるようなクローズな質問ではなく、「このことについて思い出せることをできるだけ多く教えてください」と状況を聞くことが大事。
- ・ハラスメントは受け取り手の問題。やっている側は気付いていないことが多々ある。チェックリストで振り返るタイミングを随時つくるのが良い。気付きやすくなる。
- ・「第三者を含めた体制づくり」について。今回は解決したが、解決が難しい場面もある。法関係で、どのようなタイミングで相談すると良いか。

→早い方が良い。からみ合うと、選択できる手段が限られるので。

##### (5) 連絡【副校長】

- ・令和5年度の学校運営協議会について。5月18日(木)、7月19日(水)、11月7日(火)、2月21日(水)の4回。第3回は中央特別支援学校との共同開催を予定している。

##### (6) 閉会【校長】

- ・皆様から、励ましと気付けなかった御意見をいただくことができた。温かく、示唆に満ちた御助言に感謝している。